



日本キリスト教団
三軒茶屋教会
<http://sanchurch.jp/>

三軒茶屋 教会通り

第44号 2012年4月発行

〒154-0024
東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
TEL/FAX: 03-3418-4933
発行：三軒茶屋教会 広報部

人々は伝統を重んじます。伝統の味を守る。伝統の技を磨く。伝統ある訓戒を受け継ぐ。名誉ある伝統を損なわないようにする。老舗の味、工芸の業、学校の校風、組織の文化。どれも人々は尊びます。時代の変化にも柔軟に対応しながら、同じ味、変わらぬ造形、共通の気概、期待を裏切らない評価を受けとさせられます。

しかし、そのような伝統は数年で築き上げられるようなものではありません。なぜなら、受け継がれ生き残っていく伝統とは、当事者によるただならぬ努力と献身が常に伴ってきたからです。何百年にもわたる歴史があるからです。

真の伝統とは、時代の変化や自然の脅威などがもたらす大きな試練を何度も乗り越える力、次の試練に立ち向かう力、知恵の蓄積といえるでしょう。

重鎮が去る。後継者や資材に窮する。内紛が起こる。著しい社会変動が発生する。戦争によって社会が破局する。破滅的な自然災害に見舞われる。そうした事態は、伝統保持の大きな脅威となります。

受け継がれていく伝統

牧師 伊藤英志

しかし、それぞれの時代の伝統の当事者たちは、目の前にある現実と妥協することなく、そうした困難を幾度も克服してきた。だからこそ、受け継がれるべき伝統は、より力強く時代を越えてその本領を発揮しながら今日を迎えているのです。

教会が受け継いでいる伝統はどうでしょうか。「これは我が教会の伝統です」と誇らしげに語る場面は、どの教会にも存在するでしょう。

しかし、その「我が教会の伝統」と語るものの殆どは、その時代にあつた心地良い想い出や形式的な習慣に留まることが多いようです。

靴やスリッパの並べ方、愛餐会用のクッキーやケーキの作り方、イースターエッグの包み方、青年会が担う力仕事、立て看板の書き方、印刷物のデザインと内容、今は亡きあの先生との忘れ難い美しい想い出……どれも時代を越えていく伝統とは言えません。本来の意味での伝統とは言い難いものばかりです。

伝統とは、何百年以上も時代の風雪を耐え抜いて鍛え上げられた知恵

の蓄積です。50年や100年で築き上がりはしません。

教会において今までできたことが次第にできなくなってくる。そこに危惧や不安や不満を覚えるかもしれません。しかし、維持が困難となってしまうものは、初めから伝統とはなり得ないのです。いずれ消え去るものなのです。

キリスト教会の歴史においては、迫害や弾圧や差別を乗り越えて、目の前にある厳しい現実と妥協せず、「なすべき礼拝」を続けてきました。

聖書には「伝統」を言い表す直接の言葉はありませんが、受け継ぐ、相続する、手渡すという意味の言葉があります。

今日の諸教会には、時代や価値観の変化がもたらす困難に立ち向かう決意が必要です。破局と脅威を越えて受け継がれてきた御言葉、そこに根ざした祈りの言葉、悔い改めの言葉を、今こそ語り合う時です。

今の時代を耐え抜いて次の時代に手渡す「教会の伝統」とは、死と滅びを待つ礼拝ではありません。人々の霊を生かす、生き生きとした礼拝こそが、教会が今こそ受け継いでいく伝統なのです。

